

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	40 / 2019 / 50-64 (再編集版)
タイトル	青森県の植物研究先覚者 村井三郎博士の年譜、著作目録など
著 者 名	室谷 洋司

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森県の植物研究先覚者

村井三郎博士の年譜、著作目録など

第10代 室谷 洋司

はじめに

青森県における植物研究の歴史をひもとくとき、明治・大正年代に青森県を拠点に海外まで足跡を印したフランス人のフォーリー神父(1848・弘化5～1915・大正4))がいる。同神父の日本の植物界への貢献は絶大なものがあるが、多くはヨーロッパの著名博物館に標本を送ったもので、日本に残されたものは日本の植物学者によって研究され、現在は、京都大学に収蔵されている。

一方、青森県にはどのような植物が自生、分布するかについては、1934(昭和9)年に設立された青森博物研究会発行の「青森県博物総目録」(1巻、1939年;2巻、1941年。図4～7)が基本文献になることは誰もが認めるところであろう。この歴史的な仕事を成し遂げた植物分野の担当が村井三郎博士(写真1)である。

総目録の作成は、第二次世界大戦直前のことで、完成した書籍そのものが稀覯本になってしまった。しかし、これは本県の植物研究上の最も重要な文献として位置づけられている。その完成までの経緯について簡単に触れておきたい。

発行元の青森博物研究会は、青森師範学校の和田干蔵氏が中心になって県内外の研究者に呼びかけて設立された。その趣旨は、最終的には青森県の動物、植物、鉱物の総目録を作ることであった。ところが植物分野において当時、県内に専門的な研究者はいなかった。

このようななかで、1930(昭和5)年に盛岡高等農林学校を卒業した村井三郎氏は、青森営林局に勤務。弱冠21歳という若さだったが、植物分類の大家として県内の生物研究者の間に名声が広まっていたのである。

和田は、「植物のことは村井に任せておけば良い!」とし、博物研究会の主要メンバーになったのは言うまでもない。村井は1934年8月発行の会報第1巻第1号から会員名簿に名を連ね、研究会会則の付則第6条には、生物各分野の同定者として、”1.動物一般:和田干蔵(青森師範)、2.鉱物地質:荒川謙二(青森師範)、3.植物一般:村井三郎(青森営林局)、4.昆虫類:渡邊福寿(青森営林局)、5.海藻:村上義威”のように、それぞれ担当が委嘱された。さらに会報の奥付をみると、発行代表者は和田干蔵で編集者は、初めは「時報」と「会報」を渡邊福寿と村井三郎が交互に務めていたが、第2号(1935年)から終刊(第10・11号、1941年)までは、村井がすべて取り仕切っていた。まさに村井は青森博物研究会の設立当初からの大黒柱的な存在であった。

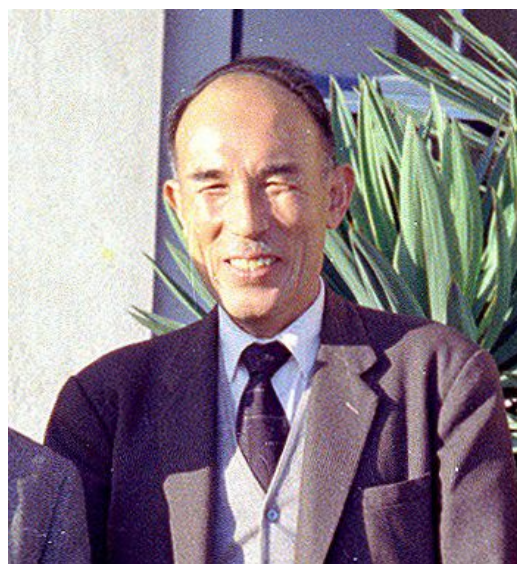


写真1. 村井三郎博士 1909～1982
(1971年撮影 所蔵:岩手県立博物館)

村井三郎の植物との出会い

村井三郎氏は1909(明治42)年、盛岡市に生まれた。父・善八氏は東京農科大学実科(現東京大学農学部)を卒業、奈良県の農学校教諭を務めたが、その後盛岡に戻って盛岡高等農林学校(現岩手大学農学部)助教授に就任、農場経営を担当した。「岩手自然史の星」(1983)で村井の生涯をまとめた井上幸三氏は、このような環境から、「4、5歳の幼少時から学校の構内・花壇・農場などで走り回って遊び、植物への関心が芽生えたものであろう」と記している。

植物への想いはますます募り、名門盛岡中学校(現盛岡県立第一高校)では一学年の博物学で植物学を学び、さらに上の盛岡高等農林学校林学科に入学した。この時点ですでに岩手県内の植物について相当レベルの知識を持ち、さらにそれを深めていくことになる。それまでの村井は図鑑類を見ながら植物を同定していたが、農林学校の農学科で管理していた植物標本を担当の富樫浩吾教授の許しのもとに、自由に調べることができるようになった。そこでは村井自身、これまでの同定に思い込みがたくさんあったことに気付くのである。

当時、岩手県では植物全体についてまとめられたものがなかった。そこで村井は、「岩手植物志」を卒業論文のテーマに選ぶことになる。富樫教授(専門は分類・病理)や内田繁太郎教授(測量学・竹笹類の分類)、武藤益三教授(樹木学)らの指導を受け、1930(昭和5)年3月の卒業の時点で「岩手植物志」のとりまとめという願望は見事に完成し、盛岡高等農林学校発行として出版されることになる。

青森営林局、林業試験場青森支場、東北林木育種場

1930年5月、高等農林を卒業と同時に青森営林局嘱託として活動の場が青森市に移った。活気に満ちた21歳の若さである。配属は計画課で、村井は林業に関する知識、分類について並外れた才能をもっていたことから、そこではこれを活かした活躍の場が待っていた。

当時、営林局は山林局からの指示で、植生係は「岩手基準帯」の植生調査が進行中であった。これは盛岡市を中心に南北の各20キロの幅で東西に延長した帯状区域が対象である。この区域内に自生するあらゆる植物を調べ上げるという大仕事。調査の一行は調査係主査・木村武松、渡辺由規夫、桐山広市各氏、それに村井の4人で2班に分かれて調査に当たった。調査期間は1928(昭和3)年から1930年の3か年で、村井の青森営林局の入局が1930(昭和5)年5月ということから、このプロジェクトの最終年次から参加したことになる。この間、1か月間の笹小屋生活もあったといわれ、難行ではあったが珍しいもの、新しいものが続出して村井にとっては重要な調査行であった。

結果は1935(昭和10)年6月、「岩手県基準帯植物目録」(図3)として上梓されたが、出版元・青森営林局名の諸言には、「……主として村井三郎之が編製に当たり、理学士牧野富太郎氏を始め、植物各部門の分類専門家の同定を経て完成せり」と記し、同じく凡例には、「産地の項に於いては、当局腊葉標本を基準とせるは勿論なるも、村井三郎著・岩手植物志(1930版)に依れるものは下線を付して明記し置けり」と、営林局では新参であった村井の名を特記している。実地調査は最終年からの参加だったが、この後発行までの6年間は村井が主体になって完遂されたことがうかがわれる。

植物分類学の黎明期にあたるこの年代において、完璧なまでの同定手続きを経た目録の発行は植物分類地理的な観点からも重要な事例というべきである。村井は当時、植物分類の最高峰の地位にあった牧野富太郎氏との触れあい、大きな自信につながったものと考えられる。

村井の膨大な著作のなかで、自伝的な内容を加えたものがある。「岩手県植物文献目録(1971)」がそれで、このなかには牧野や本田正次といった、当時の植物学者として最高峰との触れ合いが記されて、一部を引用しておく。

「第1が牧野富太郎先生との関係である。牧野先生は1928年、青森営林局の要請で、青森県下(十和田湖―八甲田山及び下北半島)に出張の途次、盛岡高農に内田、富樫両先生、岩手師範に鳥羽先生がおられたので、盛岡に立ち寄られ9月1日から3日間、城南小学校付近や高農付近、上米内方面で実地講習会を開催された。(中略)牧野先生の現地採集品は、高農に持ち帰られ整理された。(中略)その日の内に、必ず全部整理し終わられるので、腊葉紙の取換えやら新しい標本作りやらで、殆ど12時前には終わらなかった。高農での整理にはいつもお手伝えさしていただいたが、たいていは湿った腊葉紙の火力乾燥といういわば裏方さんの仕事であったけれども、時には腊葉紙取換えもやらされた。先生の標本作りのそばにいたので、標品の作り方はお陰でしっかり身につけることが出来た。その年の牧野先生は青森県下を廻られた後、9月下旬再び岩手県に立寄られ、内田先生の案内で水沢市付近のタケ、ササを採集されると共に菊地氏の案内で蓬萊山を調査され、後のリクチュウナナカマドをここで最初に発見された訳である。」

牧野は、1929年に再び青森営林局の要請によって来られ、早池峰山、茂重半島へ行っている。村井の植物学者との触れ合いをもう一つ。

「第2は、本田正次先生や小泉源一先生との関係である。(中略)1931年の正月、東大理学部植物学教室(当時は小石川植物園にあった)に本田先生を訪ねて岩淵君と共に、イネ科植物のご指導をいただいたのが、お会いした最初であり、以後、イネ科植物のご指導を受け続けている。」

年代からみると、村井が高等農林在学中から青森営林局初期ということになる。異例の卒論となる「岩手植物志」もこのような経緯で揺らぎのない信頼を得て、さらに「岩手県基準帯植物目録」に受け継がれたことになる。

なお時期的に前後するが、1931(昭和6)年7月に盛岡高等農林学校の同期生であった岩淵初郎



写真2. 村井三郎場長(中央)を囲んで、東北林木育種場のスタッフと
1959年3月20日撮影, 所蔵:岩手県立博物館

とともに岩手博物同好会(のち岩手植物同好会)を創立して、「岩手植物研究」を発行している。会誌の題字は牧野富太郎の筆によるものである。この会誌は財政難から1937(昭和12)年の第2巻第3号で終刊となっている。しかし、冒頭に記した青森博物研究会の「時報」や「会報」の編集・発行に村井は中枢的な役割を果たしているが、このような経験が大きかったのではないかと考えられる。

見出しにあげた、青森営林局勤務から1970年の林業試験場東北林木育種場定年退官までの40年間の概略について、以下に年譜と著作目録として掲げたが、組織をあげた指導的な立場にありながらも絶えず自らの調査研究が基本であった。膨大かつ多様な著作物の殆どが青森営林局管内にテーマを求めていることから十分うなづけることである。

その仕事ぶりはどうであったのか。これについては、本誌掲載の「座談会・村井三郎さんを語る」(40~49頁)で、青森時代に触れあった3人の方にお話をうかがった。研究者として、組織のリーダーとして、人間味たっぷりの村井博士像が浮かび上がり、そこには戦後間もないという時代背景をも垣間見ることができるのである。

日本林学会賞・東奥賞受賞と博士号授与

村井の初期の研究テーマは、「青森営林局管内の森林植生調査」(図8)に注がれた。これに対し、1951(昭和26)年5月に日本林学会賞と学術賞を受賞した。さらにこの業績に対して同年11月、第4回東奥賞(東奥日報社)が与えられた。

1958年、東北林木育種場長として生地の岩手県盛岡に拠点を移、岩手県植物界のリーダーとして大活躍。1966年には「邦産ハンノキ属の植物分類地理学的研究」(図9)で九州大学農学部より農学博士号を授与された。

年譜と著作目録

その業績を総覧する意味で、つぎに年譜と著作目録を作成した。「年譜」は、「岩手県立博物館収蔵資料目録」(第3集,1988)にまとめられた内容をベースにしている。「著作目録」は論文に限らず、啓蒙的なものなどあらゆるジャンルを対象とした。212編をリストアップしたが、掲載雑誌が多様で遺漏のものも多いと思う。また、実見できなかったものも多く、誌名や号、ページなどに誤りもあるのではないと思う。その場合は、お許しをいただきたい。

なお、調査研究の元となった腊葉標本や文献類は生地・盛岡の岩手県立博物館の中核資料として収蔵されたが、その概要については後段で記すことにした。

年 譜

1909(明治42)年7月18日 盛岡市東中野第23地割字馬町226番地で村井善八二男として出生	等農林学校林学科(現岩手大学農学部的前身)入学
1922(大正11)年3月 盛岡市城南尋常小学校卒業。 4月 岩手県立盛岡中学校(現県立盛岡第一高等学校)入学	1930(昭和5)年3月 同校卒業。「岩手植物志」(盛岡高等農林学校)を発行(図.1) 5月3日 青森営林局嘱託
1927(昭和2)年3月 同校卒業。 4月 盛岡高	1931(昭和6)年7月 岩手博物同好会設立し岩淵初郎とともに「岩手植物研究」創刊(図2)

- 1935(昭和10)年6月15日 青森営林局技手
 1939(昭和14)年2月18日 青森営林局計画部
 第一係植生調査主任
 5月 「青森県博物総目録」第1巻(担当:双子
 子葉植物)発行(図4,5)
 1941(昭和16)年6月 「青森県博物総目録」第2
 巻(担当:単子葉植物、球果植物、羊歯植物)
 発行(図6,7)
 1944(昭和19)年6月20日 東部第57部隊に教
 育召集(同年8月31日解除)
 1947(昭和22)年11月29日 青森営林局計画
 課勤務、農林省林業試験場青森支場兼務
 1948(昭和23)年8月24日 林業試験場青森支
 場勤務、青森営林局計画課兼務
 1950(昭和25)年6月22日 林業専門技術普及
 員(造林科目)合格
 1951(昭和26)年5月3日 「青森営林局管内の
 森林植生の概要」(図8)により日本林学会賞・
 学術賞受賞(同賞は1935年創設)
 11月3日 「青森営林局管内の森林植生の
 概要」で第4回東奥賞受賞
 12月1日 林業試験場青森支場造林研究室
 長
 1956(昭和31)年7月16日 林業試験場青森支
 場長
 1957(昭和32)年3月2日 青森県県立公園審議
 会委員
 1958(昭和33)年4月1日 林業試験場青森支場
 長、農林省東北林木育種場長併任(育種場新
 設)
 1959(昭和34)年4月1日 東北林木育種場長
 (初代、写真2)、林業試験場青森支場長併任
 4月1日 岩手大学農学部講師
 7月16日 東北林木育種場長、林業試験場
 東北支場育林部併任(青森支場廃止)
 1961(昭和36)年8月29日～10月11日 海外育
 種事情調査のため、スウェーデン、フィンラン
 ド、デンマーク、ドイツ、スイス、イタリアへ出張
 1966(昭和41)年5月25日 「邦産ハンノキ属の
 植物分類地理学的研究」(図9)で九州大学よ
 り農学博士号授与
 1967(昭和42)年1月1日 林業試験場東北支場
 育林部第一研究室主任研究官
 1969(昭和44)年5月 岩手植物の会会長
 5月8日 岩手県文化財専門委員(昭和51年
 より文化財保護審議会委員と改称)
 6月13日 盛岡市文化財専門委員(昭和51
 年より文化財保護審議会委員と改称)
 1970(昭和45)年7月17日 林業試験場東北支
 場定年退官
 8月1日 林業試験場東北支場顧問研究官
 1972(昭和47)年3月 岩手県自然保護審議会
 委員(昭和48年より自然環境保全審議会と
 改称)
 4月10日 盛岡市自然環境保全審議会委員
 6月27日 岩手県自然保護審議会専門委員
 長
 1973(昭和48)年8月23日 岩手県立博物館専
 門委員
 1982(昭和57)年9月21日 急性呼吸不全のた
 め逝去(享年74歳)
 9月21日 正五位勲五等双光旭日章叙勲

著書目録

- 1928・岩手県の高山植物.盛岡高等農林学校校
 友会会報,(51):62-73.
 1929・早池峰山における特殊高山植物.山の芋
 (盛岡中学校山岳部),(1):1-8.
 1930・岩手植物志.盛岡高等農林学校,118p.
 1931・岩手県の植生.青森営林局.
 ・(岩淵初郎共著)発刊の辞.岩手植物研
 究,1(1):1-3.
 ・とがくししょうま.岩手植物研究,1(1):21-
 32.
 ・岩手県地方の植生.東北林木育種場.
 ・(木村武松共著)管内植物についてⅠ.

- 青森林友,(186):20-28.
- ・(木村武松共著)管内植物についてⅡ. 青森林友,(187):24-32.
 - ・(木村武松共著)管内植物についてⅢ. 青森林友,(188):34-40.
 - ・(木村武松共著)岩手県地方の植生. 日本林学会誌,13(11):839-849.
- 1932 ・岩手県針葉樹木誌.岩手植物研究, 1(2):26-51.
- ・ごようまつとひめこまつ.岩手植物研究, 1(2):51-56.
 - ・三陸地方ノカバのき科樹木.岩手植物研究,1(3):7-26.
- 1933 ・三陸地方のモス・フロアの一資料.こだま(林業技術),(13):1-18.
- ・大畑実験林植物目録.青森林友,(213):40-46.
 - ・陸前船形山に於ける高山植物(付)船形山高山植物目録.青森林友,(215):29-33.
 - ・菩多尼詞雑筆(第一報)八甲田山のアオモリトドマツ.青森林友,(220):20-24.
 - ・花巻温泉付近の特記すべきカエデ科植物.花巻温泉ニュース,(43):1.
 - ・(木村武松共著)クロバナウマノミツバ.岩手植物研究,1(4):1-5.
 - ・三陸地方スゲ目目録.岩手植物研究, 1(4):6-30.
- 1934 ・菩多尼詞雑筆(第二報)八甲田,十和田に於ける牛馬と笹の関係.青森林友,(222):64-73.
- ・岩手県基準帯国有天然林植生概況並に付図.青森営林局.
 - ・宮城県山岳地帯国有天然林植生並に付図.青森営林局.
 - ・イテフシダの分布と石灰岩.青博時報, 1(2):11-15.
- 1935 ・岩手県基準帯植物目録.青森営林局,196p.
- ・(木村武松共著)岩手県基準帯・宮城県山岳地帯国有林植生概況及付図.青森営林局,54p.
 - ・宮城県植物目録.青森営林局,232p.
 - ・十和田湖,八甲田山の植物.青森営林局,208p,図版3.
 - ・(木村武松共著)管内国有天然林植生類別梗概.青森営林局第1回施業業務資料,69-73.
 - ・青森営林局に於ける植物標本用ラベルの変遷.青森博物研究会時報,2(1):11-16.
 - ・津軽半島突端龍飛岬の植物相.青森博物研究会会報,(1):27-65.
 - ・(渡辺由規夫共著)青森県に産する珍蘭トケンラン.青博会報,(2):44-46.
 - ・青森県に産する二,三暖地系樹木の分布状態.青博会報,(2):68-69.
- 1936 ・青森県に産する2,3暖地系樹木の分布状態.こだま(社・興林会),(16):23-39.
- ・文献の依る青森県の植物資料(1).青博会報,(3):13-43.
 - ・青森県に発見されたヒメサジラン.青博会報,(3):50-53.
 - ・青森県の地名を冠した植物名.青森林友,(249):48-49.
 - ・植生調査.青森営林局管内要覧(昭和9年):182-194.
- 1937 ・青森県に発見された珍種ヒトツボクロとチャセンシダ.青博会報,(4):4-13.
- ・植物方面から見た十和田国立公園.青博会報,(4):31-46.
 - ・本州北部の植物に関する文献紹介(11年度分).青博会報,(5):31-46.
 - ・十和田国立公園内の植物景觀.風景(風景協会),4(9):336-341.
- 1938 ・邦産針葉樹の群落的類別(概報).青博会報,(6):28-35.
- ・植物分類,地理学上から見たアスナロとヒノキアスナロ.青博会報,(7):1-13.
 - ・本州北部の植物に関する文献紹介(12年度分).青博会報,(7):50-77.

- ・ 本州北部に於ける常緑潤葉樹の概括. 日本林学会誌 20(5):308.
- ・ 冬期灌漑の草生変化に及ぼす影響. 施業参考資料(山林局)5:1-23.
- ・ ハンノキ類育種の進め方. 山林(大日本山林会), 別刷(963):1-7.
- 1939 ・ 青森県博物総目録Ⅰ(双子葉植物編). 青博会報, (8/9):1-52.
- ・ 大畑実験林植生類別表. 青森営林局大畑施業林実験林説明書:17-20.
- 1941 ・ 青森県博物総目録Ⅱ(単子葉植物他編). 青博会報, (10/11):53-76.
- ・ 増川実験林植生類別表. 青森営林局増川施業林実験林説明書:11-14.
- 1942 ・ 冬期灌漑の草生変化に及ぼす影響(第1報). 施業参考資料(農林省山林局), 別刷(5):1-7.
- 1943 ・ ヒバ林土壌と植生との関係. 日本林学会誌 26(9).
- ・ (神潔共著)草生と環境因子に及ぼす冬期灌漑の影響. 盛岡高農同窓会学術報告, 別刷(16):1-14.
- ・ 採草地刈取適期の選定. 昭和17年度日本林学会会員研究論文集, 530-544.
- 1944 ・ (流石英紀共著)岩手県中部樺取放牧地所於ける植物学的二, 三の研究: 第1報 放牧区と禁牧区との植生連続. 日本林学会誌 26(8).
- ・ (工藤篁共著)岩手県中部樺取放牧地所於ける植物学的二, 三の研究: 第2報 シバクサを害する「シバ白癬病」の相観的調査. 日本林学会誌 26(8).
- ・ 岩手県中部樺取放牧地所於ける植物学的二 三の研究: 第3報 崩壊地の移動並に之が復舊対策としての混播適種の選定. 日本林学会誌 26(8).
- ・ (神潔共著)ヒバ林土壌と植生との関係: 第一報 ヒバ林の植生類別. 日本林学会誌 26(9):254.
- ・ 飼料野草の刈取適期に関する研究. 青森林友, (343):11-19.
- 1945 ・ 枅、櫨、樹実の簡易粉碎食用法. 青森営林局, 16pp.
- 1947 ・ 東北地方の主要造林樹種と其の変種問題. 国土再造林技術講演集. 青森林友協会, 国土再造林技術講演集:131-151.
- ・ 岩手特産の高山植物. 森林文化 1(1):29-31.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法1. 森林文化 1(3):24-27.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法2. 森林文化 1(4/5):24-26.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法3. 森林文化 1(6):21-24.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法4. 森林文化 1(7/8):19-21.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法5. 森林文化 1(9/10):21-23.
- ・ 東北地方の主要造林樹種とその変種問題. 国土再造林技術講演集, 131-151.
- 1948 ・ 東北地方野生食用植物処理法6. 森林文化 2(1):19-21.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法7. 森林文化 2(2/3):17-19.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法8. 森林文化 2(4/5):26-28.
- ・ 東北地方野生食用植物処理法9. 森林文化 2(6/7):20-21.
- ・ 植物分類学より見たる管内主要造林樹種. 青森営林局労組青年部, 孔版印刷, 6p.
- ・ 杉挿木に関する二、三の観察. 青森営林局, 第1回造林研究報告会記録, 別刷:1-14.
- 1949 ・ 杉針葉形態の樹齡變化に就て. 日本林学会誌 31(1-2):1-6.
- ・ 東北人が見た九州地方挿杉. 林業技術, (5):17-20.
- ・ 苗畑の雑草. 苗畑提要(青森営林局), 395-458.
- ・ 杉老齡木の挿木試験(第1報). 青森営林局, 第1回林業試験研究発表会記録, 別刷:127-132.

- 1950 ・青森営林局管内森林植生の概要(Ⅰ).青森林友,(25):7-21.
 - ・青森営林局管内森林植生の概要(Ⅱ).青森林友,(26):17-39.
 - ・青森営林局管内森林植生の概要(Ⅲ).青森林友,(27):10-23.
 - ・杉針葉外部形態の變化と個樹着生部位との関係.日本林学会誌 32(8):263-268.
 - ・(武藤惇・横澤良憲共著)杉老齡木の挿木試験(第2報).第2回林業試験研究発表会記録,別刷:127-127.
 - ・青森県に植栽した杉産地試験地の植物分類学的研究(林業の部)(昭和25年日本林学会春季大会).日本林学会誌 32(4):103.
- 1951 ・青森営林局管内森林植生の概要(Ⅳ).青森林友,(28):15-25.
 - ・青森営林局管内森林植生の概要(Ⅴ).青森林友,(29):2-13.
 - ・青森営林局管内森林植生の研究.日本林学会大会講演集,(59):1-6.
 - ・(横澤良憲・細井幸兵衛共著)杉老齡木の挿木試験(第3報).第3回林業試験研究発表会記録,別刷:58-65.
 - ・(神 潔共著)ヒバ林土壌と植生の関係(Ⅰ).青森林友,(33):2-16.
 - ・(神 潔共著)ヒバ林土壌と植生の関係(Ⅱ).青森林友,(34):10-22.
 - ・広葉樹の成長に及ぼす冬期灌漑の影響に就いて(Ⅰ).青森林友,(37):35-45.
 - ・広葉樹の成長に及ぼす冬期灌漑の影響に就いて(Ⅱ).青森林友,(38):39-49.
 - ・広葉樹の成長に及ぼす冬期灌漑の影響に就いて(Ⅲ).青森林友,(39):27-37.
 - ・青森県において植物分布を画する一線の提唱.日本植物学会東北支部報,(4):1.
- 1952 ・(木村武松共著)青森営林局管内における植生調査の沿革と展望.研究だより(林業試験場青森支場),(21):2-3.
 - ・(木村武松・細井幸兵衛共著)水沢経営区、山岳林帯の植生について.林試研究発表会記録(林業試験場青森支場),(4):1-17.
 - ・青森営林局管内に於ける森林植生上から見た杉人工林地地位別指標植物の研究.林業試験場青森支場,58pp.
 - ・(横沢良憲共著)杉系統分離に関する研究.林業試験場青森支場,別刷:49-59.
 - ・森林植生に就いて(特に植生連続に就いて).東北林業教育(東北林業教育協会).
 - ・東北地方の森林と温泉.グリーン・エージ 2(8):27-29.
- 1953 ・青森営林局管内に於けるアカマツ-コナラ林とブナ-ミズナラ林との関係.日本林学会誌, 35(3):102.
 - ・青森営林局管内に於けるクリ帯、ブナ帯の混交帯について.日本林學會講演集,(62):123-125.
 - ・(黒木康雄・梶田茂共著)人造板に関する研究(第I報): 竹材を原料とした乾式纖維板の製造について.日本林学会誌, 35(3):113.
 - ・楓糖について.研究だより,(28):1.
 - ・十和田科学博物館の紹介.研究だより,(35):4.
- 1954 ・本州北端におけるヒバ林地帯の植生(予報)(第63回日本林学会大会講演要旨).日本林学会誌,36(3):6.
 - ・青森県に於けるブナ林地帯の植生資料(概報).青森営林局.
 - ・スギ種子産地試験地の概要.碓ヶ関営林署,15pp.
 - ・楓糖についての情報.研究だより,(42):4.
- 1955 ・(横沢良憲共著)クロマツの産地別試験(第64回日本林学会大会).日本林学会誌, 37(3):12.
 - ・(細井幸兵衛共著)アオモリトドマツ林の成長と植生型について(第I報): 八幡平東部地区(第64回日本林学会大会).日本林学会誌 37(3):14.

- ・(細井幸兵衛共著)亜高山林の成長と植生型Ⅰ.日本林学会講演集,(64):217-219.
- ・十和田の紅葉.研究だより(林業試験場青森支場),(50).
- ・青森県東津軽郡野内村大字野内 貴船神社境内樹木目録.孔版印刷,5pp.
- ・早池峰山を語る.研究だより,(51):6.
- 1956 ・(井沼正之共著)甲地松・御堂松・東山松.林業普及シリーズ,(45):26-55.
- ・(棟方啓爾共著)アオモリトマツ林の成長と植生型(第Ⅱ報):蔵王,不忘山地区(第65回日本林学会大会).日本林学会誌,38(3).
- ・(棟方啓爾共著)亜高山帯林の成長と植生型.第65回日本林学会大会講演集,209-212.
- ・(棟方啓爾共著)蔵王,不忘山地区における亜高山帯林の成長について.研究だより,(67):1-3.
- ・スギn植栽を北進させる.北方林業,8(5):12-14.
- 1957 ・(棟方啓爾共著)絶滅せんとしている北限カラマツ林の現状(第67回日本林学会大会プログラム).日本林学会誌 39(3):6.8月号:4-7.
- 1958 ・(横沢良憲共著)欧州カラマツ,日本カラマツ及び合ノ子カラマツの梢枯病(*Physalospora laricina* SAWADA)の罹病状況について(保護)(第68回日本林学会大会).日本林学会誌,40(3):11.
- ・ホンシュウ北部におけるバンクスマツの成長(造林)(第68回日本林学会大会).日本林学会誌 40(3):21.
- ・(棟方啓爾・細井幸兵衛共著)本州北部における裏日本系樹木の分布について.日本林学会誌,41(3):4.
- ・(棟方啓爾共著)亜高山帯林の成長と植生型Ⅲ.日本林学会東北支部会誌,(9):23-28.
- ・(金沢安栄共著)岩手県中部における外国樹種見本林の成績.早期育成林業(林総協),519-535.
- ・林試、青森支場養成の外国樹種苗木の概要.研究だより,(88):1-3.
- ・(武藤惇・細井・棟方共著)岩手山麓におけるアカマツ産地試験地の成績.特別報告(林試青森支場),(4):9-18.
- ・(細井幸兵衛共著)わが国に栽培されたバンクスマツ林の成長Ⅰ.研究だより,(93):1-2.
- ・(細井幸兵衛共著)わが国に栽培されたバンクスマツ林の成長Ⅱ.研究だより,(94):1-2.
- 1959 ・(細井幸兵衛共著)本州北部におけるストロームマツの成長.業務報告,(5):124-127.
- ・ポプラ・ハンノキ混交防風林の造成試験.研究だより,(100):1-3.
- 1960 ・森林土壌と地上植物.青森林友,2月号:1-11.
- ・(細井幸兵衛・井沼正之共著)青森県弘西地区植物目録予報.青森林友,2月号:1-11.
- ・(三浦尚彦共著)カンバ属苗木の兎害.研究だより,(111):3-4.
- 1961 ・青森のヒバ林の研究.林業技術,(236):27-33.
- ・タニガワハンノキに関する植物分類・地理学的研究(造林)(第71回日本林学会大会).日本林学会誌,43(3):13.
- ・外国樹種のその後—導入の経緯とその見通し.林業技術,別刷(237):8-15.
- 1962 ・「林試東北支場だより」の創刊によせて.東北支場・東北支所だより,(1):1-2.
- ・邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究:第1報—高木性樹種の比較研究—.林業試験場報告,(141):141-166.
- ・邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究:第2報 灌木性樹種の球果と地理分布(第72回日本林学会大会).日本林学会誌 44(2):13.

- ・(佐藤亨・貴田忍共著)採種木の仕立て方に関する研究:(第1報)カラマツ採種木剪定後の枝岐出角(第72回日本林学会大会).日本林学会誌 44(2):22.
- ・ヨーロッパ一人旅の世間話.青森林友 昭和37年1~8月号,別刷16pp.
- ・ヨーロッパ諸国の林木育種場を訪ねて.林野時報(農林協会),10(2):23-35..
- 1963 ・低木性樹種を含めた全樹種の比較研究.林木育種協会. 5.
- ・邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究(第4報):各節の地球上の分布および邦産種の位置(第74回日本林学会大会講演要旨).日本林学会誌 45(3):19.
- ・(野口 常介共著)邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究(第3報):ハンノキ属の分類体型に関する研究(第74回日本林学会大会講演要旨).日本林学会誌, 45(3):19.
- ・邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究Ⅱ—低木性樹種を含めた全樹種の比較研究—.林業試験場報告,(154):21-72.
- ・平内の植樹祭.青森林友,昭和38年8月号:1-4.
- ・欧州の林木育種(カンバ類).北海道の林木育種,5(2):1-4.
- 1964 ・邦産ハンノキ属の植物分類・地理学的研究第3報—世界全種の分類および各節の分布—.林業試験場報告,(171):1-107.
- ・欧州の林木育種(ハンノキ類).北海道の林木育種,7(1):1-5.
- ・スギ種子産地試験地の概要.碓ヶ関営林署,43pp.
- ・東北地方における育種テーマの傾向.林木育種,別刷(30):2-5.
- 1965 ・(佐々木研・高橋直治共著)日本産二葉松の地域変種識別に関する研究(1):現在までの知見および予備的報告(第76回日本林学会講集),(76):252-256.
- ・(佐々木研・高橋直治共著)日本産二葉松の地域変種識別に関する研究(2):北日本における地域変種の存在(第76回日本林学会大会講演集),(76):256-259.
- ・アカマツ林造成に対する提言.ぞうりん(青森営林局造林課),(23):1-3.
- ・(佐々木研・高橋直治・川村一共著)広葉樹のミスト・サシキに関する試験(予報).日本林学会東北支部会誌,(16):66-83.
- ・巳年にちなんだ蛇談義.青森林友,(195):8-12.
- 1966 ・(佐々木研・高橋直治共著)日本産二葉松の地域系統類別に関する研究(3):64年マキツケを主体とした吟味.(第77回日本林学会大会講演集),(77):249-251.
- ・(佐々木研・高橋直治共著)日本産二葉松の地域系統類別に関する研究(4):65年マキツケを主体とした吟味.(第77回日本林学会大会講演集),(77):252-254.
- ・(佐々木研・高橋直治共著)日本産二葉松の地域系統類別に関する研究(5):
- ・アカマツ・クロマツ種苗配布区域に対する意見予報.(第77回日本林学会大会講演集),(77):254-256.
- ・アカマツ変種概念の進歩.青森林友,(208):6-9.
- 1967 ・ナンブクロウスゴ(牧野,1912年)の起用.植物採集ニュース,(30):43.
- 1968 ・公用造林対象地の樹種判定指針.(社)岩手県林業公社,53pp.
- 1969 ・(井上幸三・中村心一共著)三陸町植物調査報告書.34pp.
- ・外国樹種のその後,導入の経緯とその見通し(1)各論(2)東北地方.林業技術,(327):8-15.
- 1970 ・岩手県植物誌.岩手植物の会編,703pp.
- ・仁別国民の森の植物.林野弘済会秋田支部,142pp.
- ・羽山御散策関係資料.岩手県,12pp.
- ・栗駒山の植物談義.岩手植物の会会報,(7):1-4.

- ・シダレアカマツ.岩手植物の会会報,
(7):口絵.
- ・(菊池・石塚・瀬川共著)岩手県植生図.主
要動植物地図—天然記念物緊急調査.文
化庁,67pp,付図2.
- 1971 ・岩手県植物文献目録.岩手植物の会,
92pp.
- ・花巻温泉佳松園付近の植物について一行
幸啓を祝して.岩手植物の会会報,(8):
1-9.
- ・銀杏と大リンネ.岩手植物の会会報,
(8):30-31.
- ・(小西明共著)林業試験場東北支場構内
樹木目録.農林省林業試験場東北支
場,62pp.
- ・(小西明共著)林業試験場東北支場構内
樹木目録.岩手植物の会会報,62pp.
- 1972 ・(坂本義彦・瀬川経郎・村井貞充共著)天
然記念物調査報告.岩手県教育委員会,
34pp.
- ・(共著)東磐井郡大東町植物調査報告書,
岩手県大東町.
- ・(共著)岩手の自然名勝と天然記念物を
訪ねて.岩手県文化財愛護協会.
- ・岩手県における老樹・名木分布資料.岩
手植物の会会報,(9):9-19.
- ・盛岡市の植物関係天然記念物調査報告.
盛岡市教育委員会,17pp.
- ・保存樹木調査報告書.盛岡市市民生活部
環境保全課,54pp.
- ・裏岩手植生調査報告書.岩手県土木
部,43-85.
- ・盛岡市の天然記念物(植物)保存樹林調
査報告書.54pp.
- 1973 ・盛岡市所在古樹名木調査報告書.盛岡市
教育委員会,33pp.
- ・陸中海岸・三貫島の植物相Ⅰ.岩手植物
の会会報,(10):5-10.
- 1974 ・陸中海岸・三貫島の植物相Ⅱ.岩手植物
の会会報,(11):3-11.
- ・(石川俊夫・徳井利信共著)十和田湖・八
甲田山文献集.十和田科学博物館,(1):9-
58.
- 1975 ・江刺中核工業団地計画地区植生調査報
告書.87pp.
- ・マンシュウキスゲ.岩手植物の会会報,
(12):2-6.
- ・(坂野昭・佐藤源蔵・後藤達夫共著)内陸
工業開発総合事前調査報告書.仙台通
商産業局,121pp.
- 1976 ・北上山系の植物と動物(植物).IBC開発
センター,124-129.
- ・(安本広静共著)中津川(北上川上流左支
川)自然環境調査報告書Ⅰ植物の部.建
設省東北地方建設局岩手工事事務所,
13-137.
- ・シラオイハコベの一変種.岩手植物の会
会報,(13):1-3.
- ・青森県植物研究史(1880年から1935
年).十和田科学博物館,(2):40-55.
- 1977 ・(小林隆二共著)盛岡市域の自然環境調
査報告書,総集編(1盛岡の植物相).盛岡
市自然環境総合調査,6-32.
- 1978 ・(小林隆二・高橋政利・安本広静共著)自
然環境保全特別調査 安家石灰岩地帯に
おける自然環境の特質とその保全.岩手
県・東北開発センター,別刷:1-16.
- ・1961年 訪欧日記,自刊,56pp.
- ・(千田善喜共著)岩手県植物拾遺録(Ⅱ)
ミズスギの新産地.岩手植物の会会報,
15:7-8.
- 1979 ・キバナミヤマアキギリ.秋田自然史研究,
(11):11-12.
- ・青森県植物研究史Ⅱ(1936年から1944
年).十和田科学博物館,(3):5-17.
- 1980 ・岩手県植物拾遺録(Ⅳ).岩手植物の会会
報,(17):6-9.
- ・盛岡の天然記念物(植物).盛岡市教育
委員会,27pp.

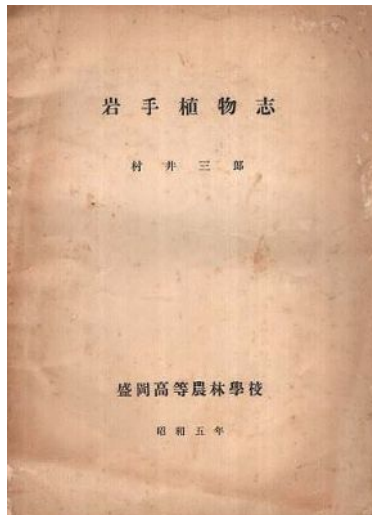


図1. 岩手植物志(1930)



図2. 岩手植物研究(1931)

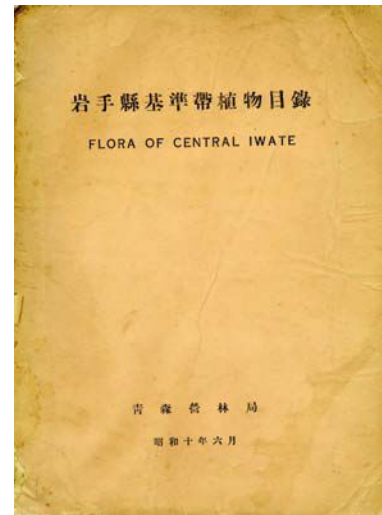


図3. 岩手県基準帯植物目録
(1935)

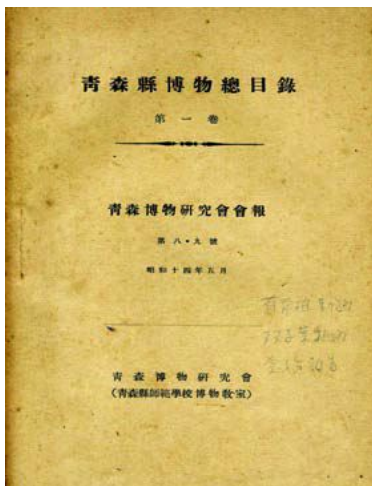


図4. 青森県博物総目録1
(1939)



図5. 目録扉(双子葉植物編)

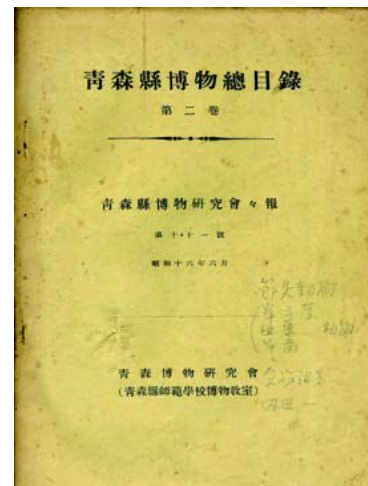


図6. 青森県博物総目録2
(1941)

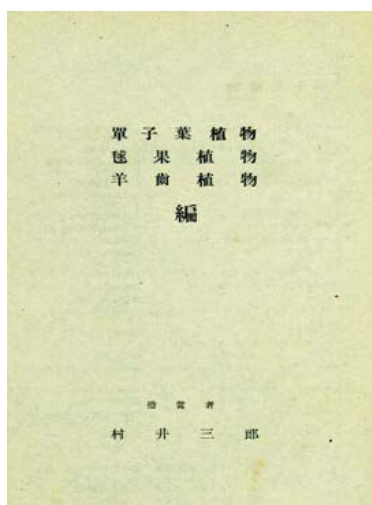


図7. 目録扉(单子葉植物編ほか)

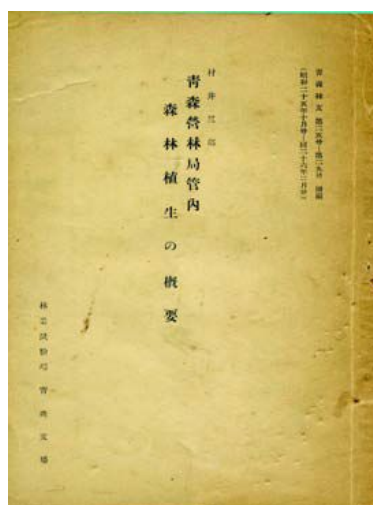


図8. 日本林学会賞など受賞対象になった業績:「営林局管内森林植生概要」(1950)

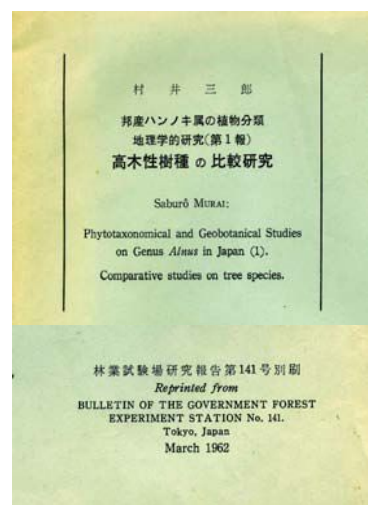


図9. 博士号授与の「邦産ハンノキ属植物の分類地理学的研究」の論文(1962-1964)

岩手県立博物館収蔵の村井博士収集腊葉標本

村井博士の研究は多くの著作としてのこされたが、その基本となった腊葉標本と研究資料が故里の岩手県立博物館に収蔵されている。

「岩手県立博物館収蔵資料目録 第3集 生物 I」(1988)によると、同館には腊葉標本を3回にわたって寄贈された。

初回は同館開館直後の1980(昭和55)年の秋で、それまで村井博士は県立博物館専門委員として、新設される同館生物分野の全般について指導、助言の立場にあった。そして資料充実のため自身で収集した標本の寄贈を申し出た。この標本は主として博士が、青森営林局及び林業試験場青森支場時代に収集したもので、林業試験場東北支場に保管されていた。標本は搬入後、沼宮内耕作(当時学芸部長)、佐竹邦彦(当時主任専門学芸調査員)の生物担当両氏によって整理され、1981(昭和56)年6月に約3000点が登録された。

2回目は博士の自宅に保管されていた標本で、昭和55年から56年にかけて当館に搬入した。自分の標本を再吟味するためにしばしば来館され、延日数にして20日以上その仕事にあたった。佐竹氏が車で村井博士の送迎を行った。これらの標本は、林木育種場長に就任し、盛岡に居を移されてからの県内での収集標本である。1983(昭和58)年1月に、約3100点の登録が完了した。

3回目は1982(昭和57)年9月21日、村井博士が死去された直後で、博士に係わる書籍等を含む学術資料一切の寄贈の申し出があり、同館が一括し受け入れた。このとき博士の生家・盛岡市馬町(現南大通り)の蔵に腊葉標本が残されているのが発見され、これも搬入した。村井博士が岩手大学農学部の講師を勤めていた時期に学生に採集させた標本が大部分である。1983(昭和58)年11月、約1360点の登録が完了した。

この時点で、タケ科、カヤツリグサ科を中心に専門家の同定を必要とするものがあり作業が続けられた。結果として、最終的には村井コレクションは7773点(重複標本を含む)で、同博物館の至宝となっている(写真3~5)。



写真3. 約8000点の村井氏の腊葉標本が寄贈された岩手県立博物館の収蔵庫(2006年12月2日撮影)



写真4. ハヤチネウスユキソウの標本

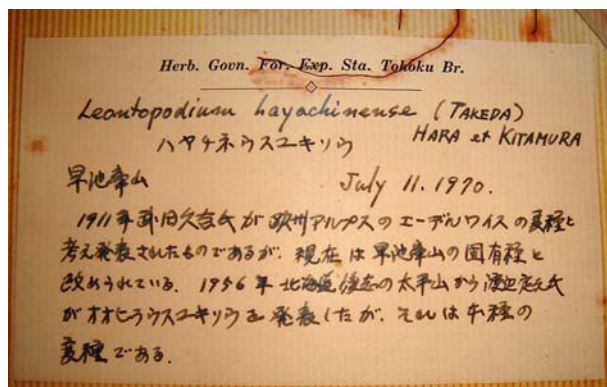


写真5. 標本に添えられたハヤチネウスユキソウの村井氏直筆のメモ

筆者は1984年当時、同館の佐竹氏と東北地方北部の昆虫相調査で知己を得ていたが、同氏は村井コレクションを受け入れるときの担当で、膨大な標本や文献資料を自宅から搬入し、さらに村井博士を車で送迎し、標本整理などについて指導を受けたという。その時々、青森時代の、特に青森博物研究会のことなどを聞かされたという。筆者はこのとき、往時の青森県の博物研究界について多くの資料とともにエピソードをうかがい、大いに参考になったことはいうまでもない。

採 集 歴

村井博士の採集歴については岩手県立博物館収蔵の標本から採集地と採集年月日を調査して推定した結果が同館の収蔵目録(第7集、1991)にまとめられている。これによると、1928年～1981年までの53年間、6県317カ所にわたっている。1928年は村井博士が盛岡高等農林学校林学科に在学していた年である。それ以前にももちろん採集はしていたものと思われる。また、村井博士は1982年に逝去されているので、その前年まで採集を続けられたということになる。このなかから、青森県を中心とした採集歴についてつぎに摘記しておく。

1. 採集時期

村井博士が最も盛んに採集したのは次の二つの時期に分けられる。

その一つは1930年～1939年までの10年間であり、この間のべ183日の採集が行なわれているが、年代が古く散逸消失している標本も多数あるであろうことを考えれば、かなりの採集がこの期間に行なわれたものと思われる。採集場所も岩手、青森、宮城の3県にわたっている。博士が盛岡高等農林学校を卒業し、青森営林局に勤務し植生調査班に配属されている。「岩手県基準帯植物目録」(1935)、「十和田湖、八甲由の植物」(1935)など多くの報告や論文が出されており、そのための精力的な調査・採集行を推し量ることができる。

二つ目は1966年～1981年までの15年間であり、この間延べ454日の採集が行なわれている。この期間の採集はほとんどが岩手のものである。1966年には、九州大学より農学博士号を授与されており、それ以降岩手県や盛岡市の文化財専門委員、自然環境保全審議会委員の公職の他、岩手県植物の会会長や各種の環境調査の委託、依頼と数々の業務をかかえることとなる。ここでは、その詳細の記述は割愛した。

2. 採集地

村井博士の採集地を県別にみると、岩手が210カ所、青森(53カ所)、宮城(41カ所)、秋田(8カ所)、山形(3カ所)、山梨(1カ所)となっている。このうち、青森県での採集地を以下に記しておく。

青森での採集記録は、1930年～1939年の間に集中している。

青森市(青森営林局、青森市、浅虫、沖館、久栗坂、新庄、内真部)、恐山、上北郡東北町、上北郡十和田湖町(宇樽部、奥入瀬、御鼻部山、猿倉、滝ノ沢、蔦温泉、十和田山、十和田湖、中山半島、幌内山)、上北郡野辺地町、北津軽郡車力村、三戸郡三戸町、下北郡大畑町、下北郡大間町、下北郡風間浦村、下北郡脇野沢村、西津軽郡鰺ヶ沢町、西津軽郡岩木町、西津軽郡岩崎村、西津軽郡深

浦町、八甲田山(荒川上流、石倉山、大岳、萱野、廿日迷、毛無岱、道川山、城ヶ倉、酸ヶ湯、高田大岳、田代、八甲田山、蛭貝山、虫壁山)、東津軽郡平内町、東津軽郡三厩村、南津軽郡碓ヶ関村、南津軽郡大鰐町(大鰐町、早瀬野)、南津軽郡浪岡町、南津軽郡平賀町、むつ市(以上、アイウエオ順)

このうち集中的に訪れている地域の採集地、採集年月日はつぎのようである。

1932年6月21日:上北郡十和田湖町奥入瀬。
 1933年6月8日:同上、14日上北郡十和田湖町
 蔦温泉、16日八甲田山毛無岱、18日上北郡十和
 田湖町奥入瀬、20日同上、21日上北郡十和田湖
 町蔦温泉、28日上北郡十和田湖町奥入瀬、29日
 同上7月2日同上、5日八甲田山田代・上北郡十和
 田湖町猿倉、6日八甲田山高田大岳、7日八甲田
 山田代、11日八甲田山高田大岳、14日八甲田山
 田代、15日八甲田山城ヶ倉、18日同上、20日八
 甲田山毛無岱、21日八甲田山逆川山、23日八甲
 田山、26日上北郡十和田湖町十和田湖、29日上
 北郡十和田湖町蔦温泉、8月1日上北郡十和田湖
 町十和田湖、4日上北郡十和田湖町蔦温泉、6日

上北郡十和田湖町十和田湖、10日八甲田山廿日
 迷、10・11日八甲田山大岳、15日上北郡十和田
 湖町十和田山、18日上北郡十和田湖町御鼻部
 山、19日上北郡十和田湖町中山半島、29日八甲
 田山幌内山。

1934年6月21日:上北郡十和田湖町奥入瀬、22
 日上北郡十和田湖町中山半島、24日上北郡十和
 田湖町滝ノ沢、7月3日八甲田山萱野、22日上北
 郡十和田湖町宇樽郡、23日上北郡十和田湖町宇
 樽部、25日上北郡十和田湖町中山半島、26日上
 北郡十和田湖町中山半島。

1935年8月18日:上北郡十和田湖町奥入瀬。

以上のような採集記録が残されているが、このうち1933年の採集は青森営林局の業務によるもので、1934年にはその成果として「十和田湖・八甲田山の植物」が刊行されている。

謝 辞

村井博士の青森営林局、林業試験場青森支場など青森時代については岩淵功・五十嵐正俊・棟方啓爾の各氏から多くのエピソードを聞くことができた。岩淵氏からは貴重な文献類をいただいた。棟方氏は村井博士の直属の部下で野外調査で同道され、思い出ばなしをうかがった。盛岡時代になって、佐竹邦彦氏からは前述のように村井コレクションの岩手県立博物館収容時のことについて貴重なお話をいただいた。同館の鈴木まほろ氏は現職の学芸担当で、村井コレクションの現状と文献類について詳細にわたって貴重なご教示をいただいた。以上の諸氏に心よりお礼を申し上げる。本文に挿入した村井博士の写真は岩手県立博物館所蔵で、使用を許可された同館に感謝を申し上げる。

村井三郎研究文献

村井 三郎(1971)岩手県植物文献目録.岩手植物の会,92pp.

上野 雄規(1977)宮城県植物文献目録.自刊,70pp.

井上 幸三(1983)岩手自然史の星.岩手植物の会,161pp.

岩手県立博物館(1984)岩手の植物展 付・岩手県立博物館蔵 岩手県産高等植物標本目録.岩手県立博物館,87pp.

岩手県立博物館(1988)岩手県立博物館蔵収蔵資料目録 第3集・生物1 村井コレクション その1. 岩手県立博物館,118pp.

岩手県立博物館(1991)岩手県立博物館蔵収蔵資料目録 第7集・生物2 村井コレクション その2. 岩手県立博物館,123pp.